

1 受賞団体・個人の名称

ふりがな のぎ たけし
タケチャンファーム 野木 武
 (京都府京丹後市)

(問い合わせ先)

E-mail: t-nogi@mx.nkansai.ne.jp

ホームページ: <http://takechan-farm.com/>

(経歴)

昭和57年に就農。地域に無かった農業青年クラブの結成に尽力し活躍。特別栽培米制度などをきっかけに、京都府最北端の京丹後市で米の自己販売を中心とした環境保全型農業に取り組む。

(受賞時の経営内容) 水稲13.5ha、ブドウ0.5haほか 労働力5名



2 生産面の取組

直接販売を通じ、食品の安全を求める顧客からの要望に応じて栽培方法を改善し、無農薬栽培や減農薬栽培を拡大。

殺菌剤の使用回数低減の目的で、育苗床土を熱消毒する床土焼成機、種もみの温湯種子消毒器、抑草を図る米ヌカ資材のペレット成形機や歩行式条間除草機を導入・活用。

日本海に近く、近隣旅館・民宿で排出されるカニ殻を入手し、土壌改良材や他の有機質資材と混合してカニ殻ぼかし肥料として活用。また、養殖カキのカキ殻も活用するなど地域資源循環に積極的に取り組む。

自らも環境NPO法人の理事として環境保全活動に取り組み、トラクター等ディーゼル機関機械の燃料には、廃食油回収活動で精製されたBDF(精製廃食油燃料)を利用し、CO₂などの排出軽減に取り組む。

平成18年には農作業場横に小型風力発電施設を設置し、作業場用電力の一部として利用。



3 経営面の取組

水稲作付品種の90%を「コシヒカリ」とし、加工直売用モチ品種、醸造会社との契約による酒米品種の作付を行い、約150件の個人顧客及び旅館等業者と年間契約。

無農薬栽培、減農薬栽培など栽培方法により価格差をつけながら、顧客のニーズに対応した需要量を生産・確保。



4 取組の成果

積極的な地域有機資源の活用を進める先駆的な取組により、他生産者への環境保全型農業・資源循環型農業の波及・拡大に影響した。

米生産において慣行栽培と比べ、化学肥料を約7割(窒素成分)、化学合成農薬を約8割(成分使用回数)の施用低減ができた。



5 地域社会への貢献

地域レベルでの環境保全活動に取り組むNPO法人に理事として参加し、廃食油回収や「菜の花プロジェクト」などの環境啓発活動を実施。

海岸や河川清掃活動など地域環境保全活動への参加。

地域の小学校や中学校が実施する総合学習や職業体験学習を積極的に受け入れ、次代を担う児童・生徒達の環境教育や農業の理解促進に尽力。



消費者・市民参加のシンポジウムや講演会などにパネリストなどで参加し、生産サイドと消費サイドの垣根を埋めるような活動にも熱心に取り組む。